

キラリ! 地域おこし協力隊

遠野に移り住み活動する「地域おこし協力隊」の活動の様子や関連イベント情報などをお伝えします。



1



3



2

1_里見さんのホップ畑にて 2_ホップが巻き付くための糸付け作業をする里見さん 3_たくさんの人の協力に支えられ行われるホップ生産

Q 活動内容を教えてください
自然に関わる農業の仕事がしたいと思い、約14年務めた飲食店から農業の世界に飛び込んだ当時のことがつい先日のように思い出されます。地域おこし協力隊として遠野に移住し3年間、全国でも珍しいビールの原料・ホップ栽培を学ぶことができました。現在は任



ホップ農家への第一歩 初収穫を目指して

里見 一彦 隊員

滋賀県信楽町出身・37歳
(2018年7月着任、本年6月末任期満了)

期を終え、研修先から独立。個人農家として約1畝程の面積のホップを栽培しています。
Q 活動での気づきを教えてください
独立後は研修先での集団作業と違い、ほぼ一人で作業しなければいけません。今までと作業工程が大きく違う部分では少し不安もあります。ですが、ホップ農家の先

輩方が相談・協力してくださることも多いので、心強く、農家同士のつながりを強く感じています。
一方で、ホップ産業の危機感も感じずにはいられません。ホップの栽培や販売などには、農家個人だけではなくいろいろな立場の人が関わっています。豊富な経験を持つ先輩農家さんも年を取っていきます。ホップ栽培がたくて就農する若者も、暮らしを維持できなければ栽培を続けられません。遠野の魅力でもあるホップ栽培を守る動きが必要だと感じます。
Q 今後の目標を教えてください
今年、ホップ農家初年度で初収穫の年となります。気候が例年と違うことも多く、まずは無事に収穫できることが最大の目標です。今後は、ホップだけでなく収穫時期が違う農作物にも挑戦するなど、安定した農業経営を目指したいです。

里見さんが挑戦したプロジェクト
「ビールの里構想」
(ホップ生産者)



宮本拓海隊員が運営に携わっている「つくる大学」は、社会変化により新たに必要となった知識やスキルを互いに学ぶ場の創出に取り組んでいます。

講座やイベント情報はこちら

つくる大学ホームページ
(右のQRコード読み取り)



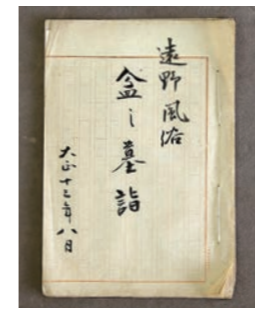
つくる大学運営事務局
Mail → tsukuru-univ@nextcommons.co.jp
HP → https://note.com/tsukuru_univ

遠野の歴史文化を紹介 遠野史歴訪

あまり知られていない遠野の歴史文化をご案内。本コーナーでは、市の「市史編さん事業」で分かった遠野の歴史文化や、遠野遺産などについて紹介します。



お墓参りは名刺を持って? 『遠野風俗 盆之墓詣』



鈴木重男が著した『遠野風俗 盆之墓詣』

『遠野風俗 盆之墓詣』は、大正13(1924)年に鈴木重男によって書かれた資料です。当時、盆に親戚や知人の墓参りをした際には、墓石に名刺を貼り付ける風習がありました。特に、大きな権力を持つていた人や人々からとても尊敬されていた人の墓は、遠くから望むと白いうろこに見えるほど多くの名刺が貼られていたと記録されています。この風習は、誰が墓参りしたのかを後からお墓を訪れる人に知らせる意図があったと考えられます。しかし、商人風の3人組が「あととは貼るところはないか」と言っていたとの記述もあり、商売の宣伝をする意味もあったのかも知れません。

この風習は後に、墓前に名刺を置く形に変化し、遠野では町方を中心に約20年前まで行われていたようです。現在もお墓用の名刺受けが販売されており、お墓に名刺を置く風習は各地に残っています。鈴木重男は教職を務めながら郷土史の研究を行い、この資料を著した大正13年に遠野郷土館を開設しました。そして、収集した資料を公開するとともに、伊能嘉矩や佐々木喜善らと共に遠野郷土研究会を創設しました。ちなみにこの年、鈴木家のお墓に貼られた名刺の数は、盆の3日間で62枚に上ったそうです。



鈴木家の墓に貼られた名刺の一部。別のページには新聞記者や印刷所の名刺も見られます

第144回

遠野遺産

The Tono Heritage

遠野遺産認定第148号「無形遺産」

鷹鳥屋獅子踊り

推薦者 小友町地域づくり連絡協議会



鷹鳥屋獅子踊りは、小友町鷹鳥屋地区で継承される幕踊り系しし踊りです。明治の初めに長野しし踊りを習得したことが始まりで、昭和38年から町内の児童生徒へ指導を開始し、48年に保存会を結成。平成17年にはイタリア・サレルノ市で公演を行いました。ある日の練習中、いつの間にか非常に踊りのうまい獅子が現れ、練習後は名前も告げずに頭だけ残して立ち去ったので、踊り手はその獅子を神様と考え、獅子頭を獅子権現様として祭ったという伝承が残っています。



MEMO

住 小友町鷹鳥屋地区
問 小友地区センター(☎68-2001)